

郷土かみのかわの歴史・文化財

人物から見た上三川の歴史 定朝

定朝は平安時代の中ごろに活躍した仏師です。1022（治安2）年に藤原道長が阿弥陀堂を建立し、出家後住んだことでも著名な、京都市にあつた法成寺の仏像制作にあたり、仏師として初めて、当時の僧の位としては3番目の法橋として確固たる地位を築き、それ以降、宮廷や藤原氏の命を受けて多くの仏像を作りました。しかしながら、現存する確実な作品は京都府宇治市の平等院鳳凰堂にある1053（永承8）年造立の阿弥陀像のみです。

彼は平明で円満な日本化された仏像を完成し、仏像の頭部・胴部を別々に作り、内部をくりぬいてから接ぎ合わせ「寄木造」という技法を確立して、工房での分業による仏像制作や自由な大きさでの仏像制作が可能になりました。実際定朝の工房はかなり大規模なもので、藤原道長の四女

で、後一条天皇の中宮威子のお産の祈禱の際に作られた27体の仏像は、100人以上もの仏師を動員して作られたことからわかります。そして、その作風は当時の貴族たちを魅了し、「尊容満月の如し」、「天下これをもつて仏の本様となす」、「その金躰まことに真像に向かうがごとし」と賞賛され、「定朝様」として後の仏像の模範となりました。

このように、仏像の模範とさえいわれる「定朝様」の仏像は、都だけではなく日本全国に広がっていききました。栃木県を含む関東地方には12世紀に入ってから本格的に波及するようになります。これは、定朝の工房にいた100人を超える仏師達がのちに大きく三系統にわかれ勢力の拡大に力をそそぎ、その技術が脈々と受け継がれた結果であると考えられます。

栃木県には「定朝様」が普及した平安時代後期の仏像が20

箇所以上で確認されていますが、そのほとんどの場所が一体のみが確認されているところであり、平安時代後期の仏像が複数確認される場所は非常に珍しいのです。実はその場所のひとつが東汗の満願寺なのです。満願寺には町指定文化財薬師三尊像の内、薬師如来坐像、県指定文化財の木造阿弥陀如来坐像の二体の典型的な「定朝様」の仏像があります。満願寺になぜ複数の平安時代後期の「定朝様」の仏像があるかは様々な説があります。「定朝様」の仏像に魅了された有力者が、この地にいたことだけは確かかなようです。



満願寺の本造阿弥陀如来坐像

平 安 時 代																	西 暦																		
1129	1105		1087	1062	1057	1054		1053	1040	1026	1022	1020	999	993	988	969	940	939	年 号																
大治4	長治2		寛治元	康平5	天喜5	天喜2		永承8	長久元	万寿3	治安2	寛仁4	長保元	正暦4	永延2	安和2	天慶3	天慶2																	
この年、一荒山一切経が書写される。		藤原清衡が平泉に中尊寺を建立する。		※このころ満願寺の木造阿弥陀如来坐像・薬師如来坐像が造られる。		後三年の役。		前九年の役。		定朝、死去。		定朝、邦恒朝臣堂の丈六阿弥陀如来坐像を制作。		宇都宮に下向するという。		このころ、宇都宮宗円、陸奥の安部氏調伏祈禱のため		長久の莊園整理令が出される。		定朝、中宮威子の御産祈禱のため仏像を作る。		定朝、法成寺の仏像制作にあたる。		藤原道長の娘彰子が女御となる。		故菅原道真に太政大臣を贈る。		尾張国郡司・百姓らが国守藤原元命の非法を訴える。		安和の変。		藤原秀郷、平貞盛と平将門を破る。		将門、常陸・下野・上野国府を攻略。新皇と称する。	